

# 八中3年人権だより

徳島市 八万中学校  
3年生 第4号  
2024年5月8日  
編集・文責 吉成正士

(第3号からのつづき)

## 自分の行動で、誰かを笑顔に

■僕は今日の2024年度八中3年第1回学年全体人権学習で、気づかうことや思いやる心の大切さを知りました。例えば誰かが泣いていたり、悲しんでいたりしていたら、どうして泣いているの？とか、大丈夫？などの声をかけて、一人でも笑顔にしたいと思いました。あと少しの全体学習で、僕は1回ぐらいは思っていることを発表したいと思いました。  
1組伊藤隼翔

発表することは勇気のいることかもしれませんが、でもそれは、あなたにとっても、あなたの周りのみんなにとっても意味のあることです。あとは、そのときに何を言うか、です。人の話を聞いていて思うのは、抽象的でぼんやりした話はなかなか頭に入ってきません。でも、具体性がある情景が思い浮かぶような例え話は聞きやすいものです。やはり、「自分を語る」ことが、大切なように思います。発表は1回でなくても構いません。1回で発表しきれなかったことは、2回目すればいいのです。それでも発表しきれなかったことは、3回目すればいいのです。そうやって、繰り返し繰り返し、自分を鍛えていくことです。その鍛えた自分が、面接の場面に出てきます。そうやって、自分自身を語っていくことです。



## 仲間がいるから乗り越えられる

■今回の人権集会では、自分の3年間の中で1番内容の濃かった1時間になったなと実感しました。理由は、文は短かったけど、初めての発表ができたからです。少し恥ずかしさや緊張した気持ちはあったけど、発表してみるとなんだかスッキリした気がしました。みんな真剣にあたたかい目で見えてくれたので言いやすくて、安心したんだと思います。

僕にとって一番惹かれた言葉は「別れ」です。みんなおじいちゃん、おばあちゃんの話をしていただけ、僕は今年

の1月に99歳のひいおばあちゃんが亡くなりました。ひいおばあちゃんのご飯が食べられなくて、点滴をずっとして、何カ月も頑張っていました。Sくんが「世の中は不平等」と言っていたとき、僕もこのようなことを思い出して共感しました。

話は変わりますが、僕にとっての峠は、受験勉強だと思います。吉成先生が言っていた「仲間の存在」を大切にしていって、少しずつ努力を重ねながら、受験勉強という僕にとって大きな峠を乗り越えていけたらと感じました。

2組木下裕聖

△ ▼ △ ▼ △ ▼ △

■私は今回の人権学習で、2つ感じたことがあります。1つ目は、とても楽しかったことです。1つの質問にたくさんの班が番号をあげており、追加でもどんどん番号をあげていたので、たくさんの意見を聞くことができ、改めて人の意見や考え方は違うなと思いました。

2つ目は、自分が前より成長したことです。1年生の時の私は、意見を言うことが怖く、人と違ったらどうしようなど、不安ばかり思っていました。しかし、学年が上がるにつれ、自分に自信ができました。それは、発表者の人に憧れ、発表を積極的に行うようになったからだと思います。当たり前ではない「人権学習」も残りわずかなので、1つ1つ大切にしていっていきながら、みんなと語り合えたらいいなと思います。そして、「自分一人じゃない」この言葉が心に残り、仲間がいるから乗り越えられるとあらためて感じました。これからもこの学年でしかできない「人権学習」をしたいと思います。  
4組森崎千智

発表できると、自分が表現できると、楽しいものです。言えないと、自分の中に何かもやもやしたものが溜まって、スッキリしないのかもしれませんが、だから、せめて班の中でなら言える、というところからスタートしてもらえればと思います。それから、「誰かにつられて言う」というのもアリです。きっかけは何だって構いません。要は、みんなに自信がつき、みんながそれぞれに成長していくことです。この学習には間違いがありませんから、誰にでも言えることはあるはずです。長くても短くても構いません。それもそれぞれです。

以前、手を挙げて立ったものの、笑顔のまましばらくモジモジしたり、手をバタバタさせたり、結局は上手く言葉にできずに座る、という子がいました。それでも、何か伝わるものがありました。そのとき、これもアリだ！と思いました。実際、心理学的には、言語表現よりも、非言語表現、例えばジェスチャーや顔の表情、目線、声の高さやスピードなどから受け取る情報の方が圧倒的に大きいといわれています。

上手く伝えられることもいいでしょう。でも、別に上手くなくても、その人なりの表現で伝えられれば、それでいいのだと思います。“何か”が伝わるのが大

切なのだと思います。

## どれだけ不可能に近くても

■私は今回の学習で、様々な考え方を知ることができました。私は「別れ」や「失う」という言葉は悲しいものだと思っていました。もちろん悲しい気持ちもあるんですけど、班の人や発表していた人は、「別れとは新しい出会いが始まるということ」「何かを失うとは、何か新しいことが起きること」と言っていました。私にはその考えはなかったの  
で、とても心に残りました。

次に峠について話したとき、私も吉成先生と同じ考えで、「努力は必ず報われる」という言葉は、必ずじゃないと思  
います。でも努力が認められたとき人は報われると思  
います。努力すれば少しでも報われる可能性はある  
と思  
います。どれだけ不可能に近くても努力してみる価値  
はあると思  
いました。私はこれから「努力は必ず報われ  
る」という言葉  
を本当にできるよう頑張りたいと思  
いま  
した。

5組鎌田理杏

「出会いは別れの始まり」ですが、「別れは出会いの  
始まり」でもあります。皆さんの姿勢に心洗われるし、  
前向きになれる。教えられます。それは、「努力は必  
ず報われる」についても同じです。ネガティブな思い  
や見方をしてしまうことがあるのですが、それでも前  
向きに努力しようとする皆さんの思いに励まされます。

もとはSさんの、病気と懸命に闘っている子につ  
いての発言でした。

「その子はたくさんいろんなことを我慢して、他の人より  
も何十倍も我慢して頑張っていたのに神様は救ってくれな  
くて。自分もすごく落ち込んで。世の中が本当に不平等  
なことばかりに溢れていて。そんなことにすごく腹が立っ  
て。なんか暗い気持ちで味気のない生活になった。」(2  
組酒井晴生)

それについて私が、「努力は必ず報われると言われ  
ることがあるが、報われない努力もあるのではないか。  
いくら頑張っても、突然命を失ったり、奪われたりす  
ることもある」と発言したことからはじまりました。そ  
れに対して、こんな発言が繋がっていきます。

「吉成先生がさっきおっしゃったように、努力は必ず報  
われるかっていわれたら、私も報われないと思  
いました。けど報われないからしないんじゃないかと、何事にもチャ  
レンジして、目標を達成できるようにしたいです。」(6組岩  
城光)

もちろん、事前に書いた原稿ではありません。即興  
の応答です。これが私の中では、次の発言に結びつき  
ます。

「私が過ごした人権学習は、自分の価値観で終わること  
のない時間になったと思います。自分以外の他人の意見  
を聞くことで、違う視点から考えることのできる時間にでき  
ると思います。でも他人の意見に左右されて、自分の意  
志まで変えてしまうことが過去にあったから、そういうこと  
になる学習にはしたくないなと思います。」(5組出葉祈莉)

誰かの投げた波紋に、別の誰かが応えます。その応



えに、また別の誰かが応えます。そうやって揺さぶら  
れていくうちに、人は自分を見失い、自分の立ち位置  
が分からなくなることがあります。それが人間なので  
はないかと思うのです。でも、次の発言です。

「人権学習で他の人の意見を聞くことが、私にとってはす  
ごい楽しいというか、新鮮な感じがして、いいなと思  
いました。人権学習をしていくなかで、私は自分自身の心  
の声ははっきり聞こえてくるようになって、この人権学習の  
時間は自分自身を見つけることができ、みんなにも私  
のことを見つけてもらったという感じがしました。これか  
らもうこういった体験とかを大切にしていけたらいいなと思  
います。」(1組橋本実野)

自分自身の「心の声」。まさしくその通りです。揺さ  
ぶられたからこそ、「本当の自分」が見えてくる。それ  
が、「心の声」というものだと思います。それは決して、  
自分の中だけで自己完結するものではありません。そ  
れでは独りよがりな「人権」になってしまう恐れがあ  
るからです。そうならないために、だからこそ「みな  
なで語り合う人権学習」が必要なのです。

受験勉強は大事です。でも、その受験勉強という異  
に飲み込まれないことです。大きく揺さぶられると、  
自分を見失いがちになります。でもそのときに、自分  
の「心の声」に耳を澄ますことです。ブレない自分を見  
つけてやることです。軸を整えてやることです。それ  
は、相手を「はね返す」というものではありません。  
受け入れつつも、自分をしっかり持つということです。

皆さんは、ずいぶん高い次元にまで成長してきま  
した。けど、本当の成長はこれからです。そんな姿を  
見られると思うと、今から楽しみで仕方ありません。



(第5号につづく)